

Harp Caravan

ハープ・キャラバン第9回

銀座十字屋 ハープ&フルートサロン

通常の営業時間と受け入れ態勢に戻ったということで、あえて銀座十字屋をハープ・キャラバンで取り上げるのは、どこか違和感もある。しかし、一連のコロナウィルス禍が残した爪痕は、ショップが当たり前前の営業に戻るための努力をお伝えしなければならないほど、深かったということだ。

当サロンは、7月1日水曜日から、平日は10時～21時/土曜日10時～19時/日曜日は10時～18時と、平常に戻っていた。しかし、この“平常”というのが曲者で、いまでも続く感染の拡大を防ぐため、丹念な防疫作業を行っている。まず、当日は手の消毒・検温がエントランスで行われる。その際、37.5度以上の熱があると認められた方は、サロンには入れない。レッスン室は通常時に戻っているが、

レッスン前後に必ず最低15分のインターバルを設け、スタッフが消毒作業にあたる。そのため、レッスン時間の若干の変更や練習室の予約が時間帯によっては取りにくくなるケースもある。また、長時間の滞在や摂水を除く飲食を控えていただくなど、平時というわけにはいかないが、すでにフリータイムも当日予約も可能なままでに戻ってきている。

この全室使用後に消毒というのは、言うほど簡単なことではない。いくら全室フレッシュな環境を保ってはいても、ブースが密な空間であることは間違いない。そこでユーザーが安心して利用できるようにと、スタッフ全員が銀座ホスピタリティをフルに発揮しているのである。何せ、戦後の殺伐としたさなかバラック社屋で営業し、東京に音楽を絶やしてはならないと、「リンゴの唄」のレコードを販売した気概の老舗である。コロナなんかには負けてはいられない、いまはハープの音色を銀座から絶やすまいと、鋭意営業中なのだ。まだまだ外出したくないという方も多いかと思うが、そろそろハープと「再会」しに銀座に来てもよい頃合いだ。

一方、リアル店舗が小休止した中、商品を届け続けた同社の銀座十字屋オンラインストアだが、音が切れないように弦の大量発注や世界有数の楽譜メーカーと提携するなど、今後もラインアップの充実を図るようなので、こちらも楽しみだ。



Ginza Jujuya
Harp & Flute Salon

情報寄稿先: harplife@ginzajujuya.com 発行人/倉田恭伸 編集人/森 泰義

A MAGAZINE FOR THE HARP PLAYER

HARP LIFE

ハープと皆様を繋げる
オンリー・ハープなフリーペーパー

08

2020



Twelfth
ISSUE
Vol.12

WHITNEY

Also Sprach Rhett Barnwell

編集長インタビュー：レット・バーンウェル

ハープ神の使徒 として

いま癒しのハープ奏者として、譜面が大人気のレット・バーンウェル。信心深く、銀座十字屋主催のWEBコンサート「ハープエイド」にも、演奏ビデオを真っ先に提供したという好漢に、独占インタビューを試みた。

最近、あなたのスコアが人気です。なぜだと思いますか？

レット：本当にありがとうございます。理由は私も判りません。私は主に神聖で瞑想的な音楽の編曲・作曲に力を入れており、近年このニーズを高まっているからだと思っています。

あなたは作曲する際に、どこからインスピレーションを得ますか？

レット：これは非常に良い質問です！インスピレーションはさまざまな方法で開花しますが、私の場合は聖書の詩篇、誰かが私に与えるアイデア、賛美歌などからです。私は昨年夏にエルサレムで2週間過ごしました。出版に取り組んでいた詩篇のセットに合わせて音楽を書きました。他の場合には、森の中でハイキングをしている時かな。音楽がちょうど私のところに舞い降りてくる感じ。自然はインスピレーションの大きな源ですね。

ハープの癒す力を信じており、
こういう時こそハープによって
快適さと強さを
与えていきたい。

一部のアメリカの教会では、ピアノの代わりにハープを使用しているって本当ですか？

レット：(聞いてもらえて)よかった！アメリカでは、多くの人々、特に大人がハープの習得を目指すようになっており、その多くが教会で演奏したいと思っているため、教会でのハープ使用は間違いなく増加しています。ほとんどの教会では、オルガンとピアノが会衆の歌唱に非常に適しているため、ハープは主に、プレリユード、ポストリユード、オフアトリー、コミュニオン瞑想などのソロの場面で使用されます。私と私の同僚の多くが、教会の礼拝でハープの使用を促進しようと頑張っています。ハープには、神聖な楽器として非常に明確な歴史があります。この目的のためにでも、ハープが再び隆盛してゆくことを期待しています。

コロナウィルスの影響で世界は厳しい状況にあります。ハープ奏者はこれらの状況で何をすべきであると思いますか？

レット：明らかに、私たちは前例のない事態に直面しており、健康への懸念は別に、ハープ奏者たちは、殊に人前での演奏に関して、厳しい制約に直面しました。私たちの仕事

の大半は、人々の交流、またはそのグループでの演奏に依存しており、残念ながら短期的に元に戻るのには不可能でしょう。簡単な答えはありません、特に生計を失った人々にとっては。それでも私はまだ音楽の力、特にハープの癒す力を信じており、こういう時こそハープによって快適さと強さを与えていきたい。私はハープ奏者に経済的な解決策を提供することはできないかもしれませんが、私たち全員ができる限りの方法で音楽を作り続けることを奨励します。特にテクノロジーに精通しているわけではない私でも、デジタル手段でコミュニケーションする方法を学び始めました。また、近所のドライブウェイでミニ即興コンサートを行って、Facebookでライブストリーミングしているハープ奏者を知り

元気づけられました。むしろコロナ危機以前は、これほど多くのハープ演奏は、アメリカで行われていなかったと思います。だから、私は誰もがプレイし続けることをお勧めし、ソーシャルメディアや他の手段を通じて他の人と共有する方法を見つけようと呼びかけています。私たちには、ハープの「福音」を、私たちが与えることのできる人々に広めるための、今こそが絶好の機会だと思うのです。今後ハープを演奏することは、助け、癒し、そして快適さを、聴き手に与える使命となる可能性があり、現在の危機は、傷ついた人々に音楽という贈り物を与えるユニークな機会でもあるのです。

弾き続けましょう、ハープを。

新入荷譜面のお求めはこちら！



HARP AID

Something we can fight for.

ハープを信じる力

コロナウイルスの蔓延は、全く予想できなかった拡大を見せた。個人や企業の活動も抑制され、無論ハープス界にも大きな影響が出た。そんな中で、3月初旬6月末まで銀座十字屋ホームページで公開された動画コーナー「ハープエイド〜Something We can Fight For」が話題を呼んだ。

今でこそ音楽家の動画リレーがそこかしこのサイトで散見できるが、このサイトは既に3月にはスタートしていた。準備を含めれば、かなり早くから

推進されていたことになる。ユニークなのは、参加したアーティストたちが思い思いの曲やメッセージを自身が選び、自写して投稿していることだ。聞くとところによれば、投稿が最も早かったレット・バーンウェルは、自身の眼の手術前にアトランタハープセンターに寄り、演奏を動画に収めてから入院したという。また自身のライブが中止になった会場から、中継しながらの演奏の様態を公開したSANAEや、“来日”で公開する予定だった3.11を風化させないイベントでの即興を映像化してみせた古佐小基史のような例もあった。

こんなことで
我々ハーピストは、
決して負けない
という
確固たる意志と
芸術家のたぎる血

海外からはイタリアの自宅での演奏とメッセージを届けたファビウス・コンスタブルやオーストラリアからヴィクトール・ハルトバヌも参加しているし、アイルランドから帰国したての村上淳志も本場アイルランドの風を届けてくれた。ハープ王子こと小林秀更は、プロ・アマの垣根を取り払って、共にハープを奏でることの楽しさを再認識させる動画を投稿してくれた。

エイドと銘打ってはいるが、誰が誰かを助けるわけでもない。援助を募るわけでもない。コロナウイルスがもたらした有事に対し、「こんなことで我々ハーピストは、決して負けない」という確固たる意志と芸術家のたぎる血が、やむにやまれぬ事情のなか、音楽を通じて魂が訴える何かを表現したい…と、彼らを行動に駆り立てたのかもしれない。それでも、受け手の我々とすれば、苛立つ気持ちや不安に苛まれる心を、彼らのハープによって確実に癒されているし、心の連帯を深く感じる事ができた。今後のハープ・コミュニケーションの方向性も示唆した好企画。参加した演奏家たちへ、心より御礼が言いたい。



Something We can Fight For



Point of
PERFORMANCE

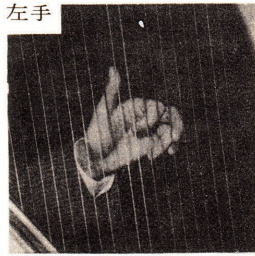
演奏のポイント

和音の練習では、雑音が鳴らないように、指を弦に入れる角度に気をつけましょ
う。曲ではフレーズを大切に。まずは力を緩めて。ぶれないバランス感覚が身に
つくと、メロディーにも音符にも、まとまりを感じられるようになるでしょう。最後はアッ
セルマンの可愛い小品「小さな子もり歌」をどうぞ。強弱やフレーズ感などを
大切に、よく聴いて、終わりのPPまで丁寧に表現しましょう。

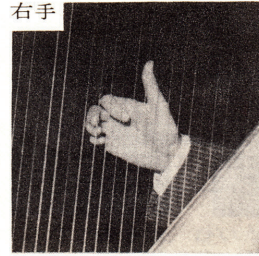
音階と 5度音程・6度音程の練習

5度、指をかけた時—6度もこれに準ずる—

左手



右手



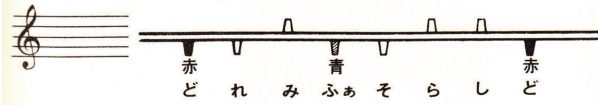
Handwritten musical exercises for harp, numbered <36> through <39>. Each exercise is written in G major (one flat) and common time (C). Exercise <36> is a scale exercise with fingerings: 4 3 2 1 4 3 2 1 2 3 4 1 2 3 4. Exercises <37>, <38>, and <39> are chord exercises with fingerings: 1 2 3, 1 3, and 1 3 respectively.

森の中の小屋

Handwritten musical score for the piece "森の中の小屋" (Cottage in the Forest). The score is in G major (one flat) and 6/8 time. It consists of four systems of music, each with a treble and bass staff.

応用練習

ハ長調の作り方



• 今までに、半音装置の $\overset{\cdot}{M}i$ と $\overset{\cdot}{L}a$ の所を上げることによって、ハ長調の音階をつくることを学びましたが、ここで始めて S^{\flat} 半音鉤を上げることによってハ長調の音階をつくれます。これによって平均率のハ長調、つまりピアノの白い鍵盤だけによる音階と同じになるわけです。

〈バイエル「ピアノ教本」から〉

〈小さな子もり歌……アッセルマン〉

Harp Life CD Collection

ハープライフ選定 ハープ銘盤コレクション

時を超えて、いつまでも残しておきたい、
ハープの銘盤CDをご紹介してゆく
コーナーです。



Harp Life
GOLD DISC
第2回

「亜麻色の髪の乙女／リリー・ラスキーヌ」

～ハープ名曲集

惜しくも終了したようだが、1993年より3年ごとにフランスではリリー・ラスキーヌ国際ハープコンクールが開催されてきた。オペラ座の歴史上で初めて入団を許可された女性演奏家であり、女性をというよりむしろハープを代表する奏者を称え、才能ある後進を輩出したいという趣向だろう。まさに、ハープの女王である。また、フルートの名手ランバルとのデュオでハープとフルートの類稀なるマリアージュを喧伝させた奏者でもあった。本作は、そんな女王の独奏集であり、意図したわけではないが、結果としてベスト盤のような佇まいを持っている。

女王とはいうが、目を見張るような美技の連続が展開されているわけでもなく、押し付けのない自然体の演奏からは、強面(こわもて)なサイドは伝わってこない。聴く人の趣味や感性によって評価は分かれるところはあるだろう。だが、この作品が銘盤の薫り芳しいのは、ハープ好きには堪えられないハープ愛によって満たされているからだ。イバル、グランジャン、アッセルマン、ドビュッシー、ボクサ。ハープ好きでなければ、ほとんど聞いたことのない名前。いまでこそビッグネームばかりだが、第一人者であった彼女がレコードによって世に問うことで、再脚光を浴びた作曲家たちといっても過言ではあるまい。名門エラートレーベルへ本作を吹き込んだ1962-75年は、

ラスキーヌが50-60代のころ、つまり彼女が最も脂が乗った時期の演奏だ。いくらでもクラシックの名曲をチョイスできたらうし、共演相手も選び放題であったはずだ。前段、結果的にベスト盤になったと記したのは、あえて十年にわたる年月で独奏に相応しい曲をしたため、同時代に生きた作曲家や埋もれたハープ曲を取り上げ、「ハープというのは、単体でもこんな豊かな音楽を造り出せる楽器なのですよ」と類例を示し、後進への道筋をつけたからだ。それは、「ハープのために書かれた曲は少ないから、メイン楽器とは呼べない」などという古いテーゼを壊す、彼女なりの革命だったと思う。LPレコードからステレオへ移行する時代、足跡と未来の両方を録音に残したという偉大な作業の割に、本作はオーソドックスな響きを伴うさりげなさがある。だとしたら、それこそまさに彼女が当時意図したところであり、ハープ独奏が違和感なく聴こえるところまで、我々の耳も成長した証し、と言えないだろうか。

お買い
求めは、
こちらから!



季節の おすすめハープ

季節ごとに、毎号1台ずつ
銀座十字屋がおすすめする、
素敵なサルヴィハープ。
今回は「ミア」です。

Vol.12

何かを購入する際、私たちはどうもハイスペックなものを選びがちです。いろいろな機能や特性が備わったもの、イコール自分にとって最良のものだと思い違いしてしまうものです。汎用イコール凡庸という勘違いも手伝って、せっかく購入したものの特性を活かしきれしていないことが多いのではないでしょうか。

レバーハープ選びも同じこと。材質・デザイン・コンセプトはともかく、どれひとつとして同じハープはありません。特にサルヴィハープは、木の成型や塗装には機械が使用されますが、職人による仕上げにより、同じ機種でも音が微妙に違います。そんな個性派揃いのハープの中で、最大ボリュームを誇るということは、品質・実績共に安定しているということであり、シンプルだけど懐が深いスタンダードな機種といえるでしょう。MIAは、まさにそのよい例です。この機種は、銀座十字屋でレバーハープのレンタルにおける代表的なモデルに採用されています。また学校などのクラブ活動にも多く用いられていることからすれば、クセがないモデルとも言えます。34弦のボディは、オーソドックスなデザインで、体に傾けたときになじみ易く、思いのほか軽く感じられます。MIAの魅力を一言でいうと、まさにこの「バランスの良さ」でしょう。低音から高音まで、実にまんべんなく音が響くため、弾きやすいと感じる方が多いようです。とりわけ低音の広がりや特筆され、弾き手の力量に合わせた返しをくれる頼もしい機種でもあるのです。

シンプル・イズ・ベスト。虚飾がない代わりに、黙って音で応えてくれるパートナー。あなたをしっかりと支えながら、あなたが表現する音の色彩の芯を響かせます。そんな信頼の厚いMIAは、地味どころか、実際にユーザーが多いため、演奏会などでは最も目にする機種の可能性があります。心地よく弾ける一台。実は、案外あなたがMIAの懐で弾かされているかもしれませんよ。

●本機種はただいまレンタル強化中です。

あなたが表現する
音の色彩の芯を
響かせます。



Mia

ミア